

金融経済情勢

当中間期のわが国経済は、海外経済の持ち直しや円安等を追い風として輸出や生産が緩やかに増加し、企業業績の改善に伴い設備投資は持ち直しの動きとなり、住宅、個人消費も持ち直しの動きが続く等、景気は緩やかな回復基調となりました。

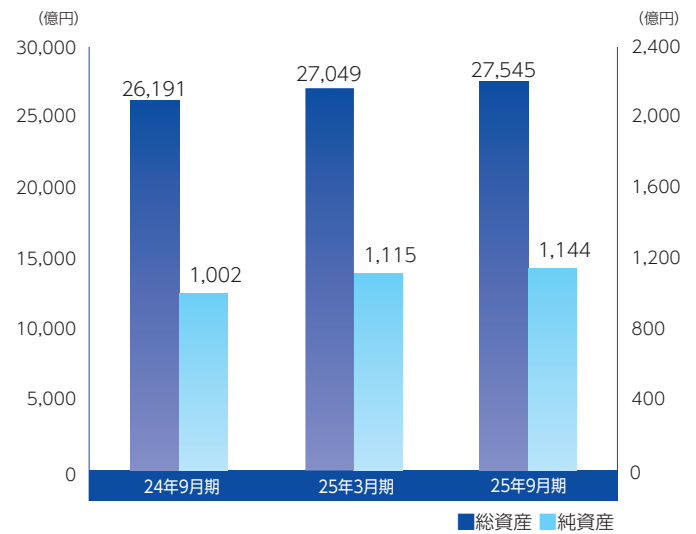
当行の主要地盤であります四国地区の経済におきましても、生産や設備投資は持ち直しの動きとなり、個人消費は緩やかに持ち直しつつある等、景気は緩やかな回復の動きとなりました。

金融面では、円・ドル相場は期首の93円台から一時103円台まで円安が進行しましたが、期末には98円台となりました。日経平均株価も期首の1万2千円台から一時1万5千円台まで上昇し、期末には1万4千円台となりました。一方で、長期金利は期首の0.5%台から0.9%台まで上昇しましたが、期末には0.6%台となりました。

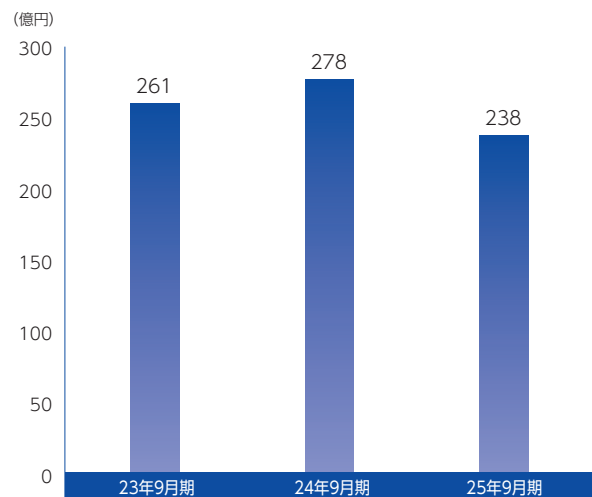
決算の概要

経常収益は、国債等債券売却益の減少等により、前年同期比40億9百万円減少し238億45百万円となりました。経常費用は、株式等償却や貸倒引当金繰入額の減少等により、前年同期比76億85百万円減少し174億23百万円となりました。この結果、経常利益は、前年同期比36億75百万円増加し64億21百万円となりました。中間純利益は、前年同期比26億13百万円増加し42億21百万円となりました。

総資産と純資産



経常収益



経常利益と中間純利益

